高等部道徳科学習指導案 『「ありがとう」のプレゼント』

**１　主題名**思いやりに応える　Ｂ-(6）　思いやり　感謝

**2　ねらいと教材**

（1）ねらい

・思いやりに応える

・他の人が思いやりの気持ちで自分に対して行ってくれたことについて、感謝の気持ちをもつことができる。

・感謝の気持ちを素直に言葉で表し、相手に伝えることができる。

（2）教材　　「ありがとう」のプレゼント　（P34-3７）

**３ 主題設定の理由**

本主題は、以下の中学校新学習指導要領「特別の教科 道徳」（平成２９年３月告示）の内容項目のねらいを受け、個々の生徒の知的障害の状態、生活年齢、学習状況及び経験等に応じるとともに、青年期の特性を考慮して、健全な社会生活を営む上に必要な道徳性を一層高めるために、適切に指導の重点を定め、指導内容を具体化した。

|  |
| --- |
| Ｂ　主として人との関わりに関すること　　（６）　思いやり　感謝  思いやりの心をもって人と接するとともに、家族などの支えや多くの人々の善意により日々の生活や現在の自分があることに感謝し、進んでそれに応え、人間愛の精神を深めること |

(1)ねらいとする道徳的価値について【価値観】

相手の思いやりの気持ちに対して、感謝の気持ちをもって接していくことは、より良い人間関係を築くことにつながる。また、将来の人間関係作りにもつながる。しかし、実際の生活の中では、相手の気持ちを理解できなかったり、感謝の気持ちを表せなかったりすることがある。

実際に相手に感謝の気持ちを伝えることで、どのような人間関係の深まりがあるのかを体験し、相手の立場や気持ちを考え、誰に対しても温かく接する態度を育てていきたい。

（２）生徒の実態について【生徒観】

自分の気持ちを簡単な言葉で表現することができる生徒を対象とする。字を書くことが苦手な生徒に対しては、話し言葉での表現を代筆するなどの配慮を行う。

日常の学校生活においては、生徒指導や特別活動、また自立活動を中心に、挨拶や礼儀の指導と関連させて、相手に伝えることの大切さを指導していく。

協働的な学習の中においても、他の生徒との関わりを通して、何か手助けしてもらった際には御礼を述べる態度を奨励していく。

家庭生活や地域生活でも、何か手伝ってもらったときや助けてもらったときには「ありがとう」と伝えることを習慣にしていくよう、家庭や地域との連携を深めておく。

（３）教材について【教材観】

「ありがとう」の言葉の意義を理解する学習を通して、感謝の気持ちを相手に伝えたいという態度を育てていく。挿絵には、「ありがとう」と伝えた内容のカードとそれを手渡すイラストが示されている。

教材の主人公の気持ちを推測する学習を行ってから、自分自身の生活で感謝したことを思い出し、実際にメッセージカードを書いて、相手に手渡す活動を行い、振り返りをすることができる教材となっている。

**４　学習指導計画**

（1）全体計画　１時間（本時）

（2）準備　　　メッセージカード、封筒

（３）指導過程

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 段階 | 時間 | 学習活動（主な発問） | 予想される生徒の発言 | 指導上の留意点  ☆評価の観点 |
| 導入 |  | １　誰かにありがとうと、伝えたことがあるか、思い出す。  　〇みなさんは、誰かに「ありがとう」を伝えたことがありますか？ | ・ある。  ・ない。  　…言えなかった。  …分からない。  …覚えていない。 | ・これまでの経験を振り返る。  ・物をもらった時以外での発言を多く取り上げる。  ・そのときの状況を追質問する。  ・「ない」の場合は、様々な状況が考えられるため、生徒の気持ちや発言を丁寧に拾うようにする。  ・生徒の発言を板書で残しておく。 |
| 展  開 |  | 2　教材　　「ありがとう」のプレゼントを読み、話し合う。  ・教材を読む。（P３４）  ・真奈美さんの人となりを整理する。  〇真奈美さんは、誰に「ありがとう」を伝えたくなったのですか。  〇そのときの真奈美さんは、どのような気持ちだったと思いますか。  〇真奈美さんが、みんなに「ありがとう」と伝えたくなったのはどうしてですか。  ・個人で考え、P３６に記入する。  ・書いたことを全体で共有する。  ・本文P３５ページを見て、真奈美さんがどのようなメッセージカードを書いて幸子さんに渡したかを確認する。  〇「ありがとう」を伝えてもらった幸子さんたちは、どのような気持ちになったでしょうか。  ・個人で考え、P３６に記入する。  ・書いたことを全体で共有する。  課題　「ありがとう」の気持ちをメッセージカードに書いて、相手に渡そう。    ３　自分で実際にメッセージカードを書く。  　①誰宛てに書くかを決める。  　②心に残っていること（かけてくれた言葉、してくれた行為等）を振り返る。  　③伝えたい気持ちを考える。  　④メッセージカードに書く。  ・書いた内容を発表する。［挙手制］ | 課題　真奈美さんがありがとうと伝えたくなったときの気持ちを考えよう。  幸子さん：困ったときに声をかけてくれたから。  瑞樹さん：あきらめそうなときに励ましてくれて  勇気をもらえたから。  康太さん：よく気付いてくれて、本当に困ったときにだけさりげなく助けてくれるから。  ・嬉しかった。  ・助かった。  ・周りの人の思いやりに気付いたから。  ・感謝の気持ちを伝えたいと思ったから。  ・喜んでくれてよかった。  ・またしてあげようと思  った。 | ・教師が範読する。  ・相関図を黒板に板書する。  ・本文の例から周りの人がしてくれたことを板書で確認し、思いやりのあるたくさんの人に囲まれている状況を理解する。  ・真奈美さんに矢印が向くように相関図を作成することで、思いやりの行為を受けていることを実感できるようにする。  ・真奈美さんの気持ちや状況を想像する。  ☆感謝の気持ちを伝える言葉が「ありがとう」であることを理解できたか。  （知・技）  ・思考を言語化する時間をとる。  ・ありがとうは言葉で伝えることも、文字で伝えることもできることを生徒たちに伝える。  ・真奈美さんが幸子さんに感謝の気持ちをメッセージカードで伝えたことで、幸子さんも嬉しくなったことを確認する。  ・感謝の気持ちを表すと、相手も嬉しくなる関係性を強調する。  ・真奈美さんが書いたメッセージカードを参考にする。  ☆周囲の人にしてもらったことを振り返り、感謝の気持ちを表現することができたか。  （思・表・判）  ☆受けた思いやりに感謝の気持ちをもち、表現しようとしていたか。  （態度）  ・机間指導の際に、全体に紹介して  よいか事前に個別に言葉をかけて  おき、手があがらなかったとき  は、指名をする。 |
| 終  末 |  | ４　実際に自分が書いたメッセージカードを相手に渡すことを確認する。  ・メッセージカードを封筒に入れて、持ち帰る。 |  | ・メッセージカードに、気持ちを込め  て丁寧に書けたことを褒める。  ・誰にいつ渡すか個別に確認する。  ・教師も楽しみにしているので、メッセージカードを相手に渡した時に相手がどのような反応をしたかを教えて欲しいことを伝える。 |

（4）終末での教師の説話例

友達や家族が自分にしてくれた行為に対して、感謝の言葉を伝えたことや手紙を書いたこと、また逆に、相手の気持ちを考えて行った行為に対して、感謝の言葉を伝えてもらったり、手紙をもらったりしたことの教師自身の体験を話す。

感謝の気持ちを伝えることで、より親密な関係となること、大切な相手となることを強調する。ありがとうという言葉を口に出したり、手紙を書いたりすることは恥ずかしいと思うこともあるけれど、やって良かったと思う気持ちになったことを伝える。

また、今は、手軽に自分の気持ちを伝えられるように、いつもメッセージカードを持つようになった。これからもたくさんメッセージカードを感謝する人に渡していきたいと思っていることを伝える。

**○板書計画**

幸子さん（たち）の気持ち

瑞樹さん

あきらめそうなとき「一緒に頑張ろう！」と

励ましてくれる。

「ありがとう」のプレゼント

〇真奈美さんが「ありがとう」を伝えたい人

　　　　　　・

・喜んでくれてよかった

・またしてあげよう

「ありがとう」の気持ちを

　　　　　　 メッセージカードに書いて

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　相手に渡そう。

康太さん

普段は見守り。

自分ではどうしようもなくなったときに手伝ってくれる。

真奈美さん

幸子さん

困ったときに

「大丈夫？」と

声をかけてくれる。

✉

真奈美さんの気持ち

・助かった

・嬉しかった